

観察会報告
アニマルトラッキング
山本幸介

6月6日の観察会はアニマルトラッキングをテーマに、富士宮市にある富士山こどもの国で開催されました。よくアニマルトレッキングと間違われますが、正しくはアニマルトラッキングです。トラッキング(tracking)を和訳すると「追跡する」という意味です。動物たちが残したウンチや足あとなどを探し、それらを手がかりにその場所にどの種類の動物が何頭くらい生息しているか推測します。

「いやいや、ウンチじゃなくて本物の動物が見たい!!」って思いますよね。私だってできれば生きた実物の動物が見たいです。しかし実際に動物に出会うのは、なかなか難しいもの。特に哺乳類の多くは夜行性なので、私たちが活動する日中は何処か草むらで、すやすやと眠っていることでしょう。動物の痕跡を探すというのは地味な作業ではありますが、よく目を凝らすと、あちらこちらで痕跡を発見できます。糞や足痕はその代表的なものですが、それ以外にも野生動物たちは痕跡を残しています。例えば、下草が生えてなく周りの地面よりぬかるんでいる「ヌタ場」と呼ばれる場所があります。ここはイノシシやシカなどが体についた虫や汚れを落とすのに使います。ヌタ場を見つけたらぜひ顔を近づけて見てください。これらの動物の毛が付着しているのに気づくでしょう。野生動物たちは私たちが思っているよりとてもきれい好きなのです。こういうヌタ場で体の汚れをゴシゴシ落としている動物たちの姿を想像してみるのも、アニマルトラッキングの醍醐味と言えます。

「でも、やっぱり私は動く動物の姿が見たい!」そう言うあなたにおすすめなのが「トレイルカメラ」。カメラの前を動物が通るとセンサーが反応して自動的にシャッターが切れる仕組みになっています。今回はトレイルカメラを事前にこどもの国の中にある溜め池の近くに仕掛けておき、トラッキング中にカメラのSDカードを回収し、レクチャールームにて鑑賞会を行いました。参加者の皆さんはもちろんのこと、私たちも何が写っているか知りません。ワクワク



トレイルカメラのSDカードを回収



トレイルカメラで撮影されたニホンジカ

クしながら映像を再生してみると、まず映し出されたのが、4つに枝分かれした立派な角を持つオスのニホンジカ。カメラに気づいたのか、こちらを凝視してきます。その堂々たる姿はおそらく、この辺りの主なものではないかと思えてなりません。他にもカメラに驚き、驚きの跳躍力を見せてくれたウサギ、カメラに全く気づかず餌を探し続けるキツネ、動くものに反応するはずなのになぜか微動だにしないアオサギなどなど、警戒心が強くてなかなか姿を見せてくれない動物たちに会わせてくれるのがトレイルカメラの良い点です。

今回の観察会はアニマルトラッキングをテーマにした初めての試みでしたが、動物たちの生きている証があちらこちらに残されていることに改めて気付かされました。皆さんも自然の中に出かけた時は、ちょっと足元にも目を落としてみてください。あなたの目の前にあるまさにそれが、野生動物の落としものなのかもしれません。